

第4回（仮称）市民参加・協働のまちづくりプラン策定会議 次第

日 時：平成23年10月18日（火）
9時30分～

場 所：白井市 保健福祉センター
2階 検診室

1 開 会

2 会長あいさつ

3 グループワーク

1. 白井市の市民参加・協働の課題と解決策
2. 課題解決により達成される白井市の姿

4 全体議論

5 閉 会

テーマ1 市・行政への市民参加の課題について

【市民参加により達成される将来像】

市が、市民・団体・事業者の市民参加・協働による市民の活力の発揮により、市が単独で全てを実施するよりも少ないコストで、市民の満足度が高い事業を展開できる状態

※第3回会議で各グループから出た意見及び講評について、テーマ毎に分類し作成

課題	原因	解決策
市民参加、市民参加のための環境はある程度行われているが、効果的に市民参加が行われていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・市が市民参加の手段と目的を勘違いしている。 ・市に市民参加した市民が継続的に市に関われる仕組みがない。 ・市民からの提案が行政に活かされていない ・市民の活力を活用していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民参加の目的を事業実施前に検討する。 ● 問題を解決するためのそれぞれの役割分担を意識する。 ● アドバイザー制度をつくる。 ● 提案を行政で検討するしくみをつくる。 ● 市民参加の事例を増やす。
行政の情報が市民に活用されていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の発信する情報が画一的すぎる。 ・行政の発信する情報が少ない。 ・難解な行政用語が多くてよくわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● IT の活用など多様な情報提供を行う。 ● 市民が発信情報をチェックする。 ● 市民が行政情報を発信する。
市民の行政への市民参加が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・市民公募が少ない。 ・委員の選出が不明瞭。 ・若年・中堅層は時間的に参加できない。 ・実施している市民参加の手法が市民が参加しやすいものではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市が企画団体からビジョンを示し市民が参加できるようにする。 ● 議事録、資料の公開など市民に積極的に公開する。 ● IT の活用によりその場に参加しなくても市民

		<p>参加できるしくみをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 抽選・無作為選出などを検討する。 ● 審議会等の委員に求める役割を明らかにし、会議を実効性の高いものとする。 ● 市は市民が参加しやすい環境を整える。 ● 市民はどのような環境が参加しやすいか市と議論する。 ● 新たな市民参加の手法を検討する。
<p>市民と行政の役割分担が不明瞭である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市が市の役割を理解していない。 ・ 市が市民に何を期待しているのかわからない。 ・ 市民が自分たちの強みを理解していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民はパートナーであることを認識する。 ● 市・市民でお互いの役割について議論する。 ● 市民の活力と市民の現状について、市民と行政で議論する。

テーマ2 地域コミュニティへの市民参加について

【市民参加より達成される将来像】

地域住民が、地域の自治会を中心とした地区社協、自主防災会、PTA など様々な団体で構成される地域を包括した小学校区単位の地域コミュニティに参加し、自立性を高めながら、市と一緒に地域のあり方を決定し、地域コミュニティと市により実行される状態

※第3回会議で各グループから出た意見及び講評について、テーマ毎に分類し作成

課題	原因	解決策
自治会や地区社協などのそれぞれの団体への市民参加はあるが、総合的な力になっていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が縦割りであり、それぞれの団体が連携を視野にいれて活動していない。 ・地域で活動している他の団体を知らない。 ・市内の同種の目的の組織が個人の事情で全く連携していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市が自治会、社協、PTA などの相互の連携の環境づくりをする。 ● 地域の団体同士でお互いを知る機会を持つ。 ● 団体は連携を視野に入れて活動する。 ● 小学校区の自治会を中心に様々な地域の団体を包括した組織を育てる。 ● 自主防災組織のような地域で活動する様々な団体をつくる。
それぞれの地域の特徴である農村部・都市部のあり方、交流について意識がない。	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校区を越えた範囲での地域同士の交流がない。 ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「食」を媒介とした農産物-消費者のようなそれぞれの地域の強み・特徴を活かした交流を日常的な生活の中で実践する。 ●
コミュニティ、市民活動の機運が低い地域がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動しやすい環境の場がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● コミュニティセンターや市民活動推進センターなどの機能を充実させる。

<p>市と連携して、地域で活動するしくみがない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に対しての市の方針が不明瞭・実行力がない。 ・ 市と連携することについて否定的な組織も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域で行政と市民・団体が協働で地域目標を作る。 ● 市民・団体は目標に向けて活動する。 ● 地域担当職員制度のようなしくみを検討する。 ● 市と市民の協働について試行錯誤で実践することで、実績を増やしながら、お互いを知る。 ● 市と自治会の連携は実績があるので、積極的に関与することで、活動の幅を広げる。
<p>市と連携しないと大規模な活動ができない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域と行政の距離感について議論されていない。 ・ 事務局機能などで行政依存になっている。 ・ 地域住民のそれぞれの団体への信頼がない。 ・ 地域に参加しやすいしくみがない。 ・ 若年・中堅層は時間的に参加できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域と行政の役割分担について議論する。 ● 市が企画団体からビジョンを示し市民が参加できるようにする。 ● 団体は地域住民に信頼されるように情報発信をする。 ● ITの活用
<p>地域の情報を地域が把握できていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市が地域に情報を出さない。 ・ 市民の地域活動への参加が減少している。 ・ 地域に団体が信頼されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民はパートナーであることを認識する。 ● 市・市民でお互いの役割について議論する。 ● 自治会などの既存の組織は、自分たちの役割を考え活動を工夫する。

<p>地域の経営するしくみがない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で決定した結果を行政に反映するしくみがない。 ・ 地域の自立という観点で市民・行政ともにならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市は、地域住民が地域で自由に事業を展開できる環境を整備する。 ● 地域と市で地域の役割について議論を行う。
-----------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

テーマ3 協働のしくみへの市民参加の課題について

【市民参加により達成される将来像】

市が実施する事業について、市民・団体・事業者との対話による応答的な関係により事業が行われる状態

- ①市が事業を実施する際に、市民・団体・事業者との協働を市民参加により検討される状態
- ②市が市民・団体・事業者と協働による事業の実施を希望したときに、市民参加により決定される状態
- ③市民・団体・事業者が、市に対する提案をしたときに市民参加により検討される状態
- ④市民・団体・事業者が、市の事業の単独又は協働による実施を希望したときに、市民参加により決定される状態

※第3回会議で各グループから出た意見及び講評について、テーマ毎に分類し作成

課題	原因	解決策
なぜ、今協働なのかわからない。	<ul style="list-style-type: none"> ・協働の定義がないのでよくわからない。 ・協働する理由が明確でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 協働について、市民に明らかにする。 ● 協働する理由を明確にする。 ● 市が市民に対して、市が単独で全てを実施するよりも少ないコストで、市民の満足度が高い事業を展開できるという協働の効果を示す。
市民がどうやって市民参加・協働したら良いかわからない	<ul style="list-style-type: none"> ・協働のしくみが不明瞭 ・地域の情報が外部の人に発信されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 個人のあいさつ、ゴミ拾いや団体では自治会のような身近なものから参加できる環境をつくる。 ●
若年者・中堅層に、時間的余裕がないため市民参加できない。	<ul style="list-style-type: none"> ・日中の行事など活動の負担が時間的に大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ITの活用により参加できるしくみをつくる。

	<ul style="list-style-type: none"> 代表・役員の負担が大きい。 	
若年者・中堅層が、市民参加するきっかけがないため市民参加できない。	<ul style="list-style-type: none"> 活動の負担が先行するので、興味が生じづらい。 団体の外部に対しての働きかけ・情報提供が弱い 	<ul style="list-style-type: none"> ● 団体は、子どもや介護など生活と関係する範囲で興味がある分野については、新たな人が参加しやすいしくみをつくる。 ● PTA など子どもを中心とした組織を更に強化する。
若年者・中堅層が、行政、地域に関心がないため市民参加しない。	<ul style="list-style-type: none"> わかりやすい情報提供がされていない。 ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市や地域はわかりやすい情報提供を検討する。
白井における協働の取り組みが増えていない。	<ul style="list-style-type: none"> 協働の効果が市民にわかりづらい。 協働の効果を行政が理解していない。 市の事業実施プロセスにおける協働の組み込みが不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ● 協働の目的が見えるものとする。 ● 市の事業実施プロセスに協働のしくみを位置づける。 ● 職員それぞれが日々の業務で協働を実践することで従来の行政の限界と協働の必要性を理解する。 ● 協働の効果が高いものからモデルとして実施する。 ● 防災など協働によって、効果を感じる人の多い事業において戦略的に最優先して協働を実施する。

		<ul style="list-style-type: none"> ● 少子高齢化、子育て、高齢者介護などの当事者の市民の課題において協働を先行して実施する。 ● 自治会との連携など今取り組んでいる協働を更に進め、多くの市民にわかるようにする。 ● 行政と市民がやりとりする場面を増やして活動の中でお互いを知る。
<p>市民と行政の役割分担が不明瞭。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市が市の役割を理解していない。 ・ 市が市民に何を期待しているのかわからない。 ・ 市民が自分たちの強みを理解していない。 ・ 市民同士の連携ができていない。 ・ NPO 同士の交流がほとんどないので、協働できていない。 ・ 市から市民に対して一方的押し付けがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民はパートナーであることを認識する。 ● 市・市民でお互いの役割について議論する。 ● 市民の活力と市民の現状について、市民と行政で議論する。 ● NPO 間の連携を強める。 ● 市は、市民の人材発掘、リーダー育成を行う。 ● 市民同士の連携を深め、信頼されるようにする。